

よつば通信



令和元年 10月 23日
魚津市立よつば小学校
10月号

URL www.yotsuba-e.tym.ed.jp

たくましく生きていける子供に

校長 宝田 哲

右に載せた詩は、誰もが知っている宮沢賢治が自分の生き方を示した有名な詩「雨ニモマケズ」ではなく、それをもとに現代の子供たちの様子を皮肉った「雨ニモアテズ」という詩です。※ 数年前に新聞で紹介され、話題になったことがあり、私の前任校である上野方小学校の学校便りでも紹介したことがあります。

大事に大事に、過剰なまでに世話を焼かれて過保護に育てられた子供自身が、「こんな子供に育ったのは親のせい。いったいどうしてくれるんだ。」と言っているかのようですね。全てに頷ける訳ではありませんが、我が子に照らしてみても「当たっているなあ」と思うことも多く、情けない気持ちにさせられます。

昨今は、子供の数が減り、親が子供にかける期待が大きくなったこともあって、子供の行動に手をかけすぎる傾向が強くなったと言われています。「子供の自主性に任せる」という妙な理屈の子育て放棄ともとれる「放任主義」にも困ったものですが、口を出し過ぎの「過保護、過干渉」になってしまっただけは、自主性どころか、わがままで傷つきやすく、他に依存する人間を育てかねません。

子供の安全が第一とされるあまり、ケガをしそうな危険なことを禁止して遠ざけるような事例は学校生活においてもあることですが、時々「果たしてこれでよいのだろうか。」と思うこともあります。子供同士のケンカにしても、大事に至らないうちに火消しに回ってしまい、子供たちが自分で感じたり、気付いたりしながら、あれこれ考えて解決を図るような経験を摘んでしまっているとも言えるのです。だからと言って、放任した方がよいということではありません。ただ、小さい頃から実生活の中で、苦しみや悲しみ、怒り、不快等を覚え、それらに対処する経験をある程度積み重ねていくことも大切であると思うのです。



pixta.jp - 21303410

世の中に出れば厳しい現実が待っているわけですから、子供の歩く道の障害物をいつも綺麗に取り除いていては、これから自立して自分の足で歩いていく人間には育ちません。私たち大人は目先のことに囚われず、かわいい子供の将来を見据えた子育てを意識し、自分の力でたくましく生きていける子供を育てるために、教師として親として、それぞれの役割と出番を十分に考えていく必要があると考えています。

雨ニモアテズ 風ニモアテズ
雪ニモ 夏ノ暑サニモアテズ
ブヨブヨノ体ニ タクサン着コミ
意欲モナク 体カモナク
イツモブツブツ 不満ライッテイル
毎日塾ニ追ワレ テレビニ吸イツイテ遊バズ
朝カラ アクビヲシ
集会ガアレバ 貧血ヲ起コシ
アラユルコトヲ 自分ノタメダケ考エテ
カエリミズ
作業ハグズグズ 注意散漫スグニアキ
ソシテスグ忘レ
リップナ家ノ 自分ノ部屋ニ閉ジコモッテイテ
東ニ病人アレバ 医者ガ悪イトイイ
南ニツカレタ母アレバ 養老院ニ行ケトイイ
西ニ死ニソウナ人アレバ 寿命ダトイイ
北ニケンカヤソショウガアレバ ナガメテカカ
ワラズ
ヒデリノトキハ 冷房ヲツケ
ミンナニ 勉強勉強トイワレ
叱ラレモセズ コワイモノモシラズ
コンナ現代ッ子ニ ダレガシタ (作者不詳)

先日の「よつばハッピースマイル集会」及び「よつばフェスタ」には、たくさんの方に参加いただき、ありがとうございました。

「よつばハッピースマイル集会」では、大勢のお客さんの前で、生き生きとステージでの発表を行い、大きな拍手をいただくと、とてもうれしそうな表情を見せる子供たちの姿が印象的でした。子供たちはこの発表に向けて、何度も練習し、よりよくなるよう工夫を重ね、一人一人が自分の役割を果たしながら協力して一つのものを作り上げるという大切な経験をしました。私たちは子供たちがここで学んだことを今後の生活に生かし、よりよく成長してくれることを願っています。